

小山市事務事業評価シート

平成30年度版

No. 3

1. 基本情報				
<1> 事業・業務名	生物多様性おやま行動計画推進事業		<2> 事業・業務の別	事業
<3> 選定基準	⑤ その他		<4> 継続評価・新規評価の別	継続評価
<5> 総合計画基本計画での体系	大項目	8 水と緑に親しむ 自然とふれあうまちづくり	<6> 担当部(局)	総合政策部
	中項目	8-1 渡良瀬遊水地をはじめとする自然環境の保全・活用	<7> 担当所属	渡良瀬遊水地ラムサール推進課
	小項目	8-1-1 渡良瀬遊水地	<8> 担当係等	ラムサール・賢明な活用推進係
	施策	生物多様性おやま行動計画の推進		
<9> 根拠法令・計画等	生物多様性おやま行動計画		<10> 関連・類似事業	
<11> 会計	一般	会計	<12> 予算科目	2 款 1 項 7 目
<13> 実施期間	年度	～ 年度	<14> 全体事業費	千円
<15> 実施手法	直営		「その他」の場合 ()	

2. Do - 実施 -									
<16> 事業・業務の概要	国土交通省の湿地再生掘削により整備される「浅い池」「深い池」等を活用して、自然観察・体験の場を提供する「エコミュージアム」の整備・実現に向け、渡良瀬遊水地の湿地環境及び湿地性希少植物の保全を図るため、関係機関・団体やボランティアの協力のもと、湿地の希少植物の生育に悪影響を及ぼすヤナギやセイタカアワダチソウの抜取り作業を実施している。また、活動を通して、より多くの方に渡良瀬遊水地の貴重な環境に触れていただく他、表彰制度を設けることで、団体や企業の保全活動への関心を高め、CSR活動への移行を目指す。								
目的	<17> 事業・業務の目的	渡良瀬遊水地第2調節池環境学習フィールドの、湿地環境及び湿地性希少植物の保全のため							
	<18> 事業・業務の対象	渡良瀬遊水地第2調節池環境学習フィールド及び関係機関・団体、ボランティア							
手段	<19> 平成29年度の活動内容	5・7・12・2月の全4回、渡良瀬遊水地第2調節池環境学習フィールド3及び環境学習フィールド1(12月のみ)においてヤナギやセイタカアワダチソウをはじめ湿地環境に悪影響を与える植物の抜き取りのほか、環境学習フィールド1においては土壌の攪乱作業を実施した。今年度初めてポスターを作成し、年間を通して周知をした。また、今年度実施されるすべての回に5人以上で参加した企業・団体を「平成29年度渡良瀬遊水地湿地保全サポート団体」とし感謝状を贈呈する制度を設けて、より多くの参加者を募った。当初10月にも実施予定であったが、悪天候により中止となった。							
	<20> 活動指標(アウトプット)	指標名	単位	平成28年度		平成29年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
		チラシ配布	枚	20,000	20,000	20,000	20,000	100.0%	
		ポスター配布	毎			200	200	100.0%	
成果	<21> 事業・業務の成果	平成26年度から継続して実施しており、これまで延べ約11,200人の方にご参加いただいている。参加者が、逆に踏み荒らさないように、進入禁止エリアを設けたり、新たな掘削によりできた、池の拡張部周辺を実施したりした。多くの企業・団体が継続して参加していただき、「平成29年度渡良瀬遊水地湿地保全サポート団体」は6団体である。							
	<22> 成果指標(アウトカム)	指標名	単位	平成28年度		平成29年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
		参加者数(1回平均)	人	650	760	700	675	96.4%	
コスト ～資源の投入量	<23> 投入指標(インプット)	区分	単位	平成28年度		平成29年度			
				計画	実績	計画	実績	投入率(%)	
		コスト	千円	2,610	2,610	2,676	2,546	95.1%	
		事業費等	千円	445	445	517	387	74.9%	
		財源内訳	国・県補助金	千円	445	445	517	387	74.9%
			地方債	千円					
			その他	千円					
			一般財源	千円					
		人件費	千円	2,165	2,165	2,159	2,159	100.0%	
		正職員	千円 × 人役	7,214 × 0.3	7,214 × 0.3	7,195 × 0.3	7,195 × 0.3		
他の職員		×	×	×	×				

3. Check - 評価 -

実績評価	妥当性	<24> 目的・対象の妥当性	1.妥当である	理由	専門家との打合せをもとにした活動であり、効果的な活動であると考えられる。チラシ以外にポスターを配布し、年間を通した周知方法は適切である。
	妥当性	<25> 手段や実施手法の妥当性	1.妥当である		
	有効性	<26> 成果の向上余地	2.向上の余地がある	理由	企業のCSR活動としての活用の呼びかけ、湿地保全活動への興味関心を高め、参加者の増加を図る。
	効率性	<27> 事業費や人件費の削減余地	3.人件費の削減余地がある	理由	企業が独自でCSR活動を実施していただくことで、実施回数の変更により、事業費や人件費を削減できる余地がある。
	公平性	<28> 受益者負担の適正化余地	1.適正	理由	受益者負担の余地はない。
		<29>総合評価	2.改善の余地がある	理由	企業独自でのCSR活動としての活用を推進。参加者の増加や活動場所の環境に応じた作業場所の設定。

4. Action - 改善 -

事業の改善	<30> 事業の課題 事業の改善点 今後の進め方等	市主催の活動のみならず、企業などが独自で湿地保全活動(CSR活動)を実施するようきっかけ作りを検討(表彰制度の追加)。 池の掘削が終了し、専門家のモニタリングや打ち合わせを参考に作業エリアの決定をしていく。			
事業の方向性	<31> 1次評価	所属長	3.現状維持	理由	企業での参加が少しずつ増加し、湿地環境や希少植物の保全について興味関心が高まってきている。企業独自での実施にもつながれば、自治体と民間が一体となった渡良瀬遊水地の保全が図られる。
	<32> 2次評価	所管部長	3.現状維持	理由	関係機関、団体との連携を図りながら、適切な活動場所・活動時期・活動回数を設定し、貴重な湿地環境の保全について考えるきっかけとなるため、この事業をさらに充実させていくことが重要である。

5 Plan - 計画 -

事業の計画	<33>実施計画	年間全4回実施。 引き続き表彰制度を活用して参加者の増加を図る。	<35>コスト	区分	単位	平成30年度	平成31年度
						計画	計画
				コスト	千円	2,546	2,546
	<34>活動・成果目標	渡良瀬遊水地の湿地環境及び湿地性希少植物の保全を図るとともに、より多くの市民等の環境保全への理解を深めるきっかけとする。		事業費等	千円	387	387
				人件費	千円	2,159	2,159